

2.3.5 自然環境の総合的な状況

「伊那市史 自然編」(昭和 56 年 7 月 伊那市史刊行会)によると、一般的な伊那市の気象は、夏の気温は日中にかかなり高温になっても、夜間は急激に冷却して、真夏でも一晩中寝苦しいという晩はあまりない。また一年中通じて天気は晴れの日が多く、降水量も比較的少なく、湿度も高くない。降雪量も少なく、冬季間のうちで 30cm を越す積雪は滅多にない。

風向は地形に左右される。天竜川の川筋では南北風があっても支流の流域に入るとその地形に沿った風が吹く。

天竜川は、対象事業実施区域の西側を、北から南へ向かって流下しており、西の中央アルプスから小沢川、小黒川等が流入し、東の伊那山脈・南アルプスから棚沢川、三峰川等が流入して、骨格形状を成しており、それらの河川が河岸段丘を形成している。段丘崖を中心に湧出している場所が無数にある。

対象事業実施区域は、三峰川とその支流である新山川の合流点に位置し、その周囲には水田が広がっている。対象事業実施区域は扇状地性低地(天竜川の本流及び支流の氾濫原のうち砂礫層の堆積物からなる部分)であり、地質は氾濫面(河川堆積物 泥・砂・礫)で、氾濫面の下部には扇状地堆積層がある。

これらの気象、水象、地象の条件下に、種々の動物、植物が生息・生育しており、多様な生態系が構成されている。「伊那谷の自然 I」(平成 9 年 6 月 社団法人中部建設協会)によると、「(対象事業実施区域の下流にある)榛原河川公園から上流はヨシにおおわれた河原で、オオヨシキリ、アオサギ、コサギなどの水辺の野鳥を観察するのによいところです。広い河原に、ヤナギ、ハリエンジュ、イタチハギなどの低木が生え、野鳥が巣を作ったり休んだりするのに適しています。」と記述されている。生態系の上位に位置する「上位性の種」としては、オオタカ等の猛禽類、コサギ、アオサギ等のサギ類、カワセミがあげられる。また、典型的な地域の生態系の特長を表す「典型性の種」としては、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、ハツカネズミ、カヤネズミがあげられ、特殊な環境であることを示す指標となる「特殊性の種」としては、オオアカウキクサがあげられる。

なお、近年、三峰川及び新山川は、南アルプス船形沢崩壊地より流出している粘土質のため白濁しており、生態系への影響が懸念される。